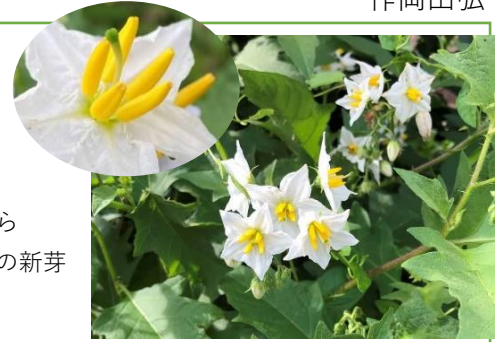


2023年6月23日 亀の瀬地滑り地帯で観察した植物

作岡田弘

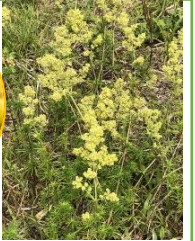
ワルナスビ（悪茄子）ナス科ナス属 *花期＝6～10月

アメリカ原産の多年草、世界各地で繁殖して「悪魔のトマト」「ソドムの林檎」と呼ばれて嫌われ、果樹園、農家を困らせているようだ。茄子の接木は誤り、噂のみ
名前の由来＝牧野富太郎の命名、自宅の庭で栽培したところ、全草に毒が含まれ何にも利用できない、葉や茎に棘があり一度繁殖すると駆除しきれなく始末が悪さから「悪茄子」と命名した。全草に「ソラニン」と言う毒が含まれている、ジャガイモの新芽に深まれている毒と同じ、黄色のミニトマト状の実、***花言葉**＝欺瞞・悪戯



キバナカワラマツバ（黄花河原松葉）アカネ科ヤエムグラ属*花期＝7～8月

名前の由来＝河原に多く生えており、葉が松葉の様に細いので。日本原産の多年草、陽当たりの良い乾いた河原や草地に生え、茎は丸い、葉の長さ2～3cm、巾1～3mmの線状葉の縁はやや裏側に巻、先端に短いトゲがある、花は葉腋や茎先に円錐花序花序を出してたくさん咲く。***花言葉**＝活発。 同じ仲間に白い花の「カワラマツバ」があります。



カラフトホソバハコベ（樺太細葉繁縷）ナデシコ科ハコベ属*花期＝6～7月

今回、歩道の脇のアスファルトの隙間から多く生えていたが乾燥して枯れていた、が最近、彼方此方の道端で多く見かけられる。原産地はヨーロッパで多年草、**名前の由来**＝樺太からきた葉の細いハコベ。ハコベとは、万葉集にも出てくる古い植物で、葉配りがハコベラとなり、ハコベに転じた。最初北海道で見付かり、その後日本全土に帰化している、茎は4稜あり、滑らか、葉は対生、巾2～4mmの線状、花は茎の先端に5弁花、花弁が二つに深く切れ込んでいるので10弁に見える、両性と雌花があり、両性花の方がやや大きい。***花言葉**は無い、**ハコベの花言葉**は、ランデブー、密会、愛らしさ、初恋の想い出、



ヤナギハナガサ（柳花笠）クマツヅラ科クマツヅラ属*花期6～8月

南アメリカ原産の多年草、日本全土に分布、***名前の由来**＝細長い線の様な繊細な形をしているので柳の葉に見立て、花の咲き姿がドーム型になっており花笠を冠った様にみえるので。***花言葉**＝幸運に・魅惑する。 茎は4稜あり（四角）茎先に穂状花序を散房状に出し小さな紅紫色の花を沢山つける、花径は約3～5mmくらい筒状花で先が五つに裂ける。非常に丈夫で、寒さ暑さにも耐え、繁殖するので、いずれ特定外来生物に指定されるのではと懸念似た花に、アレチハナガサがある、遠くから見ると花色が同じなので見分けづらいが、花の着き方に違いがある、葉の形



アメリカオニアザミ（亜米利加鬼薊）キク科アザミ属*花期＝7～10月

アメリカとあるが、ヨーロッパ原産の1～2年草、茎葉4稜（四角）あり高さ50～100cm全体に鋭い棘を持ちヒレ（翼）がある、葉の上面は緑色で固い短毛がある、裏面は綿毛が多く白色、花は枝先に1～3個つき、総苞片は線形で鋭く尖る、***名前の由来**＝アメリカから輸入した牧草に混入して広がったので、オニは棘の事を指す、アザミは沖縄八重山地方の方言でトゲが多いことをアザムと言うのが転じてアザミになった。牛、馬も食べないので、生態系被害防止外来種に指定されている。**オニアザミの花言葉**＝独立・報復・厳格・触れないで



クワモドキ（桑擬き）別名オオブタクサ・キク科ブタクサ属*花期8～9

北アメリカ原産の1年草、種子で繁殖、空き地、堤防、河川敷などに群生、夏に花が咲きこの花粉がアレルギーの原因となるので「ブタクサ」とともに花粉公害雑草の代表的なものです、全体が大型で茎は直立し、上部で分枝して広がり、高さ1～2mにも達する、葉は対生大型で掌状に3～5裂する。名前の由来は桑の葉に似ているから、別名のオオブタクサはブタクサと同様、花粉症の原因となる花粉を出して、ブタクサより大型だから。雌雄同株の風媒花



トゲジシャ（棘萵苣）キク科チシャ属（アキノノゲシ属）花期10

荒地や道端で見られる、今回も駅前にも途中道端にたびたびあった。高さ1～2mにもなる越年草、茎の下部やはの縁、裏面、主脈上に細いトゲが多数ある。茎は直立して赤味を帯びる、葉は互生、倒披針形～長楕円形で羽状に切れ茎を抱く、縁に鋸歯がある。**名前の由来**＝チシャとはレタスのこと、レタスの原種と言われてる

